

會 告 日 本 鐵 鋼 協 會

日 本 標 準 規 格 私 費 印 刷 分 讓 の 件

1. 内容、形式、寸法共 商工省御編纂 のものと同一なり。
2. 代金は 1 枚に付き 金壹錢也とす。
但し郵税は實費。第四種郵便にて 17 枚迄で 2 錢 18 以上 36 枚迄で 4 錢 其れ以上は 20 枚内毎 2 錢増しのこと。

本 會 の 發 行 日 本 標 準 規 格 目 次

規格 番號	類別 番號	名 稱	決 定 年 月 日 大正	商 工 省 告 示 番 號	右 同 告 示 年 月 日 大正	枚 數	規格 番號	類別 番號	名 稱	決 定 年 月 日 大正	商 工 省 告 示 番 號	右 同 告 示 年 月 日 昭和	枚 數
第1號	B1	金属材料抗張試験片	11.10.19	43	14.3.5	2	40	H1	銅 板	15.6.23	30	2.10.22	3
2	B2	針金の徑、薄板の厚 及其の稱呼	〃	44	〃	1	41	H2	黄 銅 板	〃	31	〃	3
3	Z1	寸法標準數	13.3.27	17	14.9.18	1	42	H3	アルミニウム板	〃	32	〃	3
4	Z2	等比標準數	〃	〃	〃	1	43	H4	銅 棒	〃	33	〃	3
5	G1	鍛 鋼 品	〃	9	〃	4	44	H5	ネーバル黄銅棒	〃	34	〃	3
6	G2	鑄 鋼 品	〃	10	〃	4	45	H6	高力黄銅棒	〃	35	〃	3
7	G3	鑄物用銑鐵	〃	11	〃	1	46	H7	火延黄銅棒	〃	36	〃	3
15	G4	水管罐用繼目無鋼管	14.3.27	18	15.10.26	2	47	H8	挽物用黄銅棒	〃	37	〃	2
16	G5	圓罐用繼目無鋼管	〃	19	〃	3	48	H9	繼目無鋼管	〃	38	〃	3
17	G6	機關車罐用繼目無鋼管	〃	20	〃	2	49	H10	機關車罐用繼目無 黄銅管	〃	39	〃	2
18	G7	一般用繼目無鋼管	〃	21	〃	3	50	H11	復水器用繼目無黄銅管	〃	40	〃	2
19	G8	瓦 斯 管	〃	22	〃	1	51	H12	復水器パツキング 抑用繼目無黄銅管	〃	41	〃	1
20	G9	構造(橋梁、建築其 の他)用壓延鋼材	〃	23	〃	6	52	H13	一般用繼目無黄銅管	〃	42	〃	2
21	G10	造船用壓延鋼材	〃	24	〃	5	53	H14	銅 地 金	〃	43	〃	2
22	G11	罐用壓延鋼材	〃	25	〃	6	54	K1	銅地金分析方法	〃	18	昭和 3.5.23	12
23	G12	鐵道車輛用壓延鋼材	〃	26	〃	6	55	K2	鐵及鋼炭素分析方法	2.10.3	20	4.5.13	5
24	G13	壓延鋼材の寸法及 重量の公差	〃	27	〃	2	56	K3	鐵及鋼珪素分析方法	〃	〃	〃	5
25	G14	標準棒鋼	昭和 2.10.3	23	昭和 4.5.13	4	77	G18	罐用繼目無鋼管の寸法	3.10.18	32	5.6.2	1
26	G15	標準形鋼	〃	29	〃	16	78	G19	一般用繼目無鋼管 の寸法	〃	23	〃	2
36	B8	管用れど	大正 15.6.23	26	昭和 2.10.22	〃	79	G20	可鍛鑄鐵品	〃	24	〃	3
37	B9	管接手れど	〃	27	〃	〃	80	G21	水道用鑄鐵管	〃	25	〃	4
38	G16	瓦斯管の寸法	〃	28	〃	1	81	H15	水道用鉛管	〃	26	〃	3
39	G17	銑	〃	29	〃	〃	82	H16	亞鉛地金	〃	27	〃	2

以上の外設計上の参考及製作規格等本會に關係するも多々あれども追ふて發行するものとす。

實物寸法 15.9mm 一四寸五分五厘

JES	日本標準規格	第55号
鐵及鋼炭素分析方法		類別 K2
		頁 1

第 一 章 總 則

第一條 本規格ニ鐵及鋼ノ炭素分析方法ニテ適用

第二條 鐵及鋼炭素分析方法ニテノ三種トス

一、炭素量及鐵炭素分析方法

二、特殊炭素分析方法

三、合金鐵炭素分析方法

第 二 章 炭 素 鋼 及 鐵 炭 素 分 析 方 法

第三條 本條ノ炭素分析方法ニテ炭素、遊離炭素及化合炭素ノ定量法トス

第四條 全炭素定量法ニテノ法トス

一、要 旨

試料ヲ乾式燃焼法ニ依リ直接ニ炭素ノ気流中ニテ燃焼シ炭素ヲ完全ニ酸化セシメテ炭素ヲ為シ之ヲ曹達石灰又ハ曹達石灰ニ吸收セシメ其ノ増量ヨリ炭素ヲ定量ス

二、設 置 (附圖参照)

(一) 燃焼装置

本装置ハ瓦斯管 (a) ニ貯ヘタル炭素瓦斯ヲ其ノ中ニ含有スル炭素瓦斯又ハ有機性瓦斯等ヲ除去シ且清淨乾燥スルガ「クロム」酸飽和硫酸 (硫酸比量 1-02) フラスコ (洗瓶) (b)、曹達石灰又ハ曹達石灰ヲ填メタル管 (c) 及硫酸 (比重 1-04) フラスコ (d) ノ順次連結シタルモノトス

(二) 燃焼法

燃焼瓶ノ内徑約 3cm ノ管狀電氣炉 (f) 又ハ適當ノ瓦斯管ニテ電流又ハ瓦斯ヲ調整シ「バイロメーター」ニ依リ其ノ中央部ニ炭素試料 10mm ノ一定重量ヲ保持シ得ヘキモノトス

炉ニ其ノ四端ニ約 16mm 突出シ得ヘキ長ヲ有スル内徑約 2mm ノ燃焼管 (e) ノ挿入ス又ハ管中ニ挿入セラルヘキ燃焼「ポート」ノ位置ノ後方的 10mm 至リテ白金石棉、「パラフィン」石棉又ハ酸化銀石棉ヲ填メタルモノトス

(三) 瓦斯吸收装置

本装置ハ燃焼瓶ヨリ出タル瓦斯ヲ吸收セシメタル「クロム」酸飽和硫酸 (硫酸比量 1-02) フラスコ (g)、五酸化磷 フラスコ (h) 及曹達石灰又ハ曹達石灰ヲ挿入スル洗瓶 (i) ノ順次連結シタルモノトス

昭和二年十月三日決案 工業品規格統一調査會

會 告

會費領收報告

正會員

金四圓五拾錢也

(自昭和六年一月至同年六月)

伊勢喜之助	井上敏之助	石田四郎	今福嘉作	日本鐵線鋼索株式會社	一本木清三
石田莊太	伊藤正夫	井村竹市	石原善平	池貝鐵工所發動機部	池永雅之助
池上重德	市川茂三郎	石川重遠	石澤命知	石黒利吉	石井定一
飯島健吉	伊丹榮一郎	今井弘郷	石黒時次郎	池上龍夫	井上太一
伊藤隆吉	井上順三	乾康彦	井門文三	池田正二	五十嵐政治
今井文平	伊藤乙次郎	石井直虎	泉量一	石尾廣一郎	石原克己
居城又助	井上禧之助	一色富松	池田千吉	石原久米藏	井上高藤
岩井興太郎	池田英雄	石原純一郎	石河臺三	伊東久美	飯澤富次郎
石原茂吉	伊藤孝吉	今岡登喜治	井口庄之助	稻葉政助	石田富之助
伊澤正宣	井口常雄	石原善雄	今坂義忍	池島三達	池上庸之助
盧成七	六角三郎	長谷川正五	濱田忍	林明	羽室武彦
濱田清太郎	濱野長三郎	發動機製造株式會社	バウルシュミツ	橋本三彌	服部濱田
林幾太郎	服部三郎	羽島金三郎	萩野友助	濱住松二郎	秦源次
林狷之助	濱田彪	橋本宇一	濱田八之助	日本銀行調査局	西津霍吉
範多龍平	ハインリ、ツヒ、ゴーセンス	新村千尋	新村千尋	西村啓造	日本鑄鋼株式會社
西澤公雄	日本窒素肥料株式會社	二階堂行健	西村小次郎	日本製鋼所	西尾銈次郎
西山彌太郎	大屋敦造	大島十郎	堀市次郎	本多光太郎	堀岡利一
西村直尙	仁井辰政	西村秀雄	東馬三郎	東京鋼材株式會社	百々初男
細谷義一	堀切政康	保坂文藏	戶畑鑄物株式會社	東京鋼鐵製作所	若松工場
銅金義一	東京製鋼株式會社	川崎工場	戶畑鑄物株式會社	縫野敏文	尾花信篤
友田一太郎	戶波親平	東海電極株式會社	名古屋工場	大岩寅吉	大村正源
布目齊司	大森治一郎	小川芳樹	小幡睿治	大貫富藏	大石源治
大倉商事株式會社	大坂支店	小方嘉一郎	越智誠二	大屋正吉	大阪鐵商同業組合
大野宗平	大森偉一郎	尾形次郎	岡虎太郎	太田西松	大阪鐵商同業組合
大日方一司	大立廉一	尾崎眞一	小田切延壽	大阪鐵商同業組合	岡島奈良藏
大屋敷正平	大出善一	太田貞吉	岡敬藏	小川清一	渡邊俊修
緒方正一	小田清吉	岡山貞吉	大久保立吉	渡邊新一郎	加藤山齊
小倉正恒	小奥村千武	渡邊常吉	渡邊讓吉	渡邊一勤	川上義弘
渡邊行太郎	渡邊武進	渡瀨駿吾	渡邊惠弘	門川勤	川島信吉
川口正名	河相榮匡	川本良篤	嘉村平八	川部孫四郎	川崎舍恒
片山國孝	加藤合吉	上島慶一郎	勝本忠兵衛	金井慶二	川崎舍恒
河合盛雄	高壯美三	川村吟次郎	甲藤新密	加茂正雄	川崎舍恒
河村千吉	高笠原寬美	片山謹一	加藤恭平	金子與四郎	川崎舍恒
加來三千彦	高笠原寬美	金原信泰	加藤英吉	加藤仁平	香高良壽
神谷豐太郎	神戶堯	神谷三代一	河野大麓	加藤又健	高川武人
川崎造船所製鐵工場	吉田正心	川那邊甚藏	金子田豐彦	梶米田健平	橫山久吉
吉田幸吉	吉田文吉	橫山鐵之助	吉岡代友	吉川正浩	吉田久陸
吉森信直	吉川晴十	高洲清七	吉岡代友	高田正清	高木野正
吉川雄輔	吉川友次郎	瀧澤正弘	高田憲和	田中花邊	種子田右八郎
田宮嘉右衛門	竹場露嘉	高木	高田憲和	立花邊	大同電氣製鋼所
竹內保孝	高村國策	竹田鍊	高田憲和	田邊	
立花好孝	高砂鐵工株式會社				

氷上克之 諸岡鼎 桃木長 森寺一 毛利獻三 森祐吉
 森川敬 本橋彌八 森格 瀨尾巧 瀨戶靜夫 關口八重
 關川貞雄 角野尙德 杉本正邦 杉浦稠三 末廣恭二 誠訪常次
 鈴木正次郎 數納松次郎 鈴木益廣 住友製鋼所 鈴木信次 杉村伊兵衛
 鈴木和志理 鈴木益廣

金拾七圓貳拾五錢也 (自昭和四年八月至昭和六年六月) 松山寬慈
 金拾五圓也 (自昭和六年一月至昭和七年八月) 岩瀨德藏
 金九圓也 (自昭和六年一月至同年十二月) 原田蕃 太田房夫
 竹内維彦 村上武次郎 五代龍作 相原鏝次郎 早稻田大學
 金九圓也 (自昭和六年七月至昭和七年六月) 長谷川熊彦
 金九圓也 (自昭和五年七月至昭和六年六月) 陸路録 内山久萬
 西脇徳和 高松誠 武田修三 辻嘉六 川原有美
 佐藤英一 三輪時雄 櫻井爭三 佐々木新太郎 松本順吉
 金九圓也 (自昭和五年四月至昭和六年三月)
 金八圓也 (自昭和五年十一月至昭和六年六月)
 金六圓五拾錢也 (自昭和六年一月至昭和六年六月會費及入會金)
 上野建二郎 三宅當時 志賀潔 森孫四郎
 金六圓也 (自昭和六年一月至昭和六年八月) 吉田永助
 金四圓五拾錢也 (自昭和五年七月至同年十二月) 遠藤彦造 村井信平
 金參圓也 (自昭和六年三月至同年六月) 小田原大造 三神正苗

准會員

金參圓六拾錢也 (自昭和六年一月至同年六月)

今井史郎 池田傳 伊木常世 石原隆三 伊東謙次郎 稻村賢三
 稻津健介 伊澤惣作 居初辰 伊藤部 井上武治 石橋英太郎
 岩永利夫 泉谷彌一 五百川信一 井上愛 井上義三 石川頼三
 今坂啓四 石橋貞一 伊賀存和 井香賀 田隆 石川達次郎
 入江定男 一色貞三 伊藤省吾 市川直 原隆吉 飯尾菟雄
 入江仁壯 井生茂三 伊濱文宗 濱部信 林吉之助 原於康作
 原田公樹 畑時秀 服部正美 川謙次 腹原清玉 針池力松
 林圭一 蜂谷茂雄 西郡 西崎園 堀見東一 西垣倫吾
 伴圭 日露漁業會社臺場町工場 星長 堀內太 大岡藤吉 新堀千葉 一本田登喜二
 堀憲義 帆足有志夫 堀柄清實 大鷹田 小原高 堀野邊 千谷宇治郎
 堀辰寛 細川柄塚 大谷益次郎 小原廣平 小川邊 大畑野 大岡緒方
 大澤隆三 大谷益次郎 奧山隆 小田原三 小川邊 小川邊 大岡緒方
 岡本幸治 奧山隆 小田原三 小川邊 小川邊 大岡緒方
 小野武夫 荻和田 吉澤英 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰
 岡村貞良 吉澤英 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰
 渡邊義三 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰
 吉田清太郎 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰
 高橋熊龜 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰
 高田智太 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰
 瀧留 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰 高橋貫辰

根永中中永村上浦葛久山山山山前松松福藤小近小小遠寺足赤齋里佐菊木滿柴重鹽清平森茂鈴鈴河高金加道	本富前野岡岡田田目慈下本本本本前松松福藤小近小小遠寺足赤齋里佐菊木滿柴重鹽清平森茂鈴鈴河高金加道	文三福武元靜彥維常惚尙武光武太貞鐵又八寅晶正次幸貞守勝忱十右衛門元正弘爲源盛正忠勝美靜達	耶雄夫市雄武郎八治義藏男夫次眞造三一信耶雄一一登環次衛康哉靖眞治三寬義助雄夫	中灘仲中中村上野熊久藪山山柳松眞松前古深小江手安澤酒菊湯南白倉津野關口杉川甲河堀藤富	尾谷村岡野本谷田田澤井野本井谷森場藤林原島部藤井井地城倉倉津野關口杉川甲河堀藤富	富谷村岡野本谷田田澤井野本井谷森場藤林原島部藤井井地城倉倉津野關口杉川甲河堀藤富	雄博次勇美登市雄五郎實郎太郎作光介雄介義一溫介男熹勝男助那候一雄夫彌雄二宗正	士富秀喜德光周三藤俊光幸德六保權富貞達浩虎三永恒寬浩正敏貞繁昌牛三春榮定浪義貫直	雄博次勇美登市雄五郎實郎太郎作光介雄介義一溫介男熹勝男助那候一雄夫彌雄二宗正	永西島野村田中田原口村本下田喜谷井藤小江遠藤青阿有佐佐澤龜結三白芝嶋平平茂清鈴杉川加垣穗戶島	末西島野村田中田原口村本下田喜谷井藤小江遠藤青阿有佐佐澤龜結三白芝嶋平平茂清鈴杉川加垣穗戶島	巖人文義雄巖三詔二生夫武新公榮耶弘三勇義正一治尙一松次雄衛耶治信亮介實吉明茂壽三市吉三雄耶治雄	成瀨川中長棟居上田澤本川山山八山樹松前藤藤後小遠江朝相酒坂佐坂木目川白石平平毛膳末鈴加龜桂堀富	澄重保清太敏正一周忠富藤正小道元信忠眞雅露浩一佐兔正富音松幾俊將國惣之一千代輝靜小鐵良	耶明彦盛耶雄德郁一彦夫助已秀耶徹滋三二男亨一耶晴三爾耶敏市夫耶吉城尾次雄一雄之助雄輝男又男三	野黑田房金照秀雄兼直欽正政伊勢三覺嘉彦勇丑有圓壽貞勝次不義佐治諄善敬金壽九月喜宮元孝義行健	夫耶彰吉彌造雄二夫政爾治信男耶市耶次治一藏吉耶昌輔勝雄吾廉次耶弘一吉要雄久雄作治明雄吉	中永名永村有字日栗山山山柳山益松丸福藤古近小遠寺秋新作佐澤清喜宮下河鹽志日守盛鈴鈴杉川加川富戶	野沼兒田井勸川下田本村田下崎森倉山丸井賀藤小山藤井元井井田原津崎見村野屋盛口木山野藤崎山田	康行重重光宗滿之英正吉富榮眞芳治定喜光嶽藤忠熊英誠太清幸一利策收夫隆三義耶藏耶次行義壽耶吉	也雄馨穗勝斌七基義助夫榮耶治一夫介雄門治耶雄雄二太耶清幸一利策收夫隆三義耶藏耶次行義壽耶吉
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---

金拾八圓也
 金拾壹圓六拾錢也
 金八圓貳拾錢也
 金七圓貳拾錢也

(自昭和四年一月至昭和六年六月) 堀江 吉光
 (自昭和五年十一月至昭和七年三月會費及入會金)
 (自昭和六年一月至昭和六年十二月會費及入會金)
 (自昭和六年一月至昭和六年十二月)

麻田 宏
 片山 博

北川 水雄	南滿洲鐵道會社理學試驗所		
金七圓貳拾圓也	(自昭和五年七月至昭和六年六月)		
橋本 温乎	武内 武夫 黑崎 源一 大和 林八	見邊 良太	佐藤 孫三
松井 武美	後藤 尙 出羽 善次 佐野 半兵衛	平瀬 浩彦	
金七圓貳拾錢也	(自昭和四年七月至昭和五年六月)	佐藤 英一	
金六圓也	(自昭和五年九月至昭和六年六月)	清 通 胤	
金六圓六拾錢也	(自昭和五年八月至昭和六年六月)	三橋 録三	
金五圓八拾錢也	(自昭和五年十一月至昭和六年六月會費及入會金)		原口 太吉
金五圓貳拾錢也	(自昭和五年十二月至昭和六年六月會費及入會金)		牛田 包美
金四圓八拾錢也	(自昭和五年十一月至昭和六年六月)	岡田 實	白土 四郎
金四圓六拾錢也	(自昭和六年一月至昭和六年六月會費及入會金)		
井原 信行	小田 助男 和田 敏男 永山 巽	金子 吉雄	森本 瀧彌
山崎 信三	山之内 弘 廣瀬 鐵治		
金四圓貳拾錢也	(自昭和五年十二月至昭和六年六月)	大江 繁樹	田丸 善政
金參圓六拾錢也	(自昭和五年七月至昭和五年十二月)	大成 省三	茂木 吉治
金貳圓七拾錢也	(昭和六年二月より六月に至る)	石川 竹盛	

會誌改良に就て會告

豫め公告せし通り會誌は去一月號より下記の通りに改正致しました。夫れに就て會員諸彦の御所見承りて参考に供したいと思ひます。

1. 2 段組とし紙質を改めて寫眞圖版など從來のものに比して鮮明になつたと思ひます。
2. 索引が著者名引及題目名引となり著しく改善を加へました。
3. 特設公告拔萃及内外雜誌に著れた論文題目名拔記を載せる事にしました。以上之等は今後尙ほ一段と進みたいと思ふて居ります。

編輯